

安心の出産と医療へ責任果たせ

大阪市議会民生保健委 寺戸議員が質問



寺戸月美議員

民生保健委員会(1日)で寺戸月美議員は、住吉市民病院(大阪市住之江区)が昨年3月末に廃止されて以後の影響や、同病院の跡地に整備される新病院の問題などについて質問しました。

大阪市は、2024年

を目標に新病院を整備する方針です。それまでの暫定措置として住之江診療所を開設しますが、入院ベッドはなく、外来診療は産科も小児科も午前中だけです。出産は府立急性期・総合医療センター(住吉区)に併設された

「住吉母子医療センター」を利用しなければなりません。寺戸氏は、急性期総合医療センターと直線距離で2キロしか離れていないことを理由に住吉市民病院を廃止したが、交通手段が少ない中で、住之

江区に住む妊婦や保護者にとって「母子医療センター」への通院は大きな負担になっていると指摘。地域住民の希望も聞き、独自の巡回バスを運行するよう求めました。

また新病院の「基本構想」について住民説明会を開くよう要求したのに

対し、市はパブリックコメントを実施したことを理由に、「現時点で住民説明会を開催する予定はない」と答弁しました。寺戸氏は「とんでもないことだ」と厳しく批判。住民の声を誠実に聞き、当初の約束通り、「小児科10床以上」「産科10床以上」の病床を、市の責任で確保するよう強く求めました。